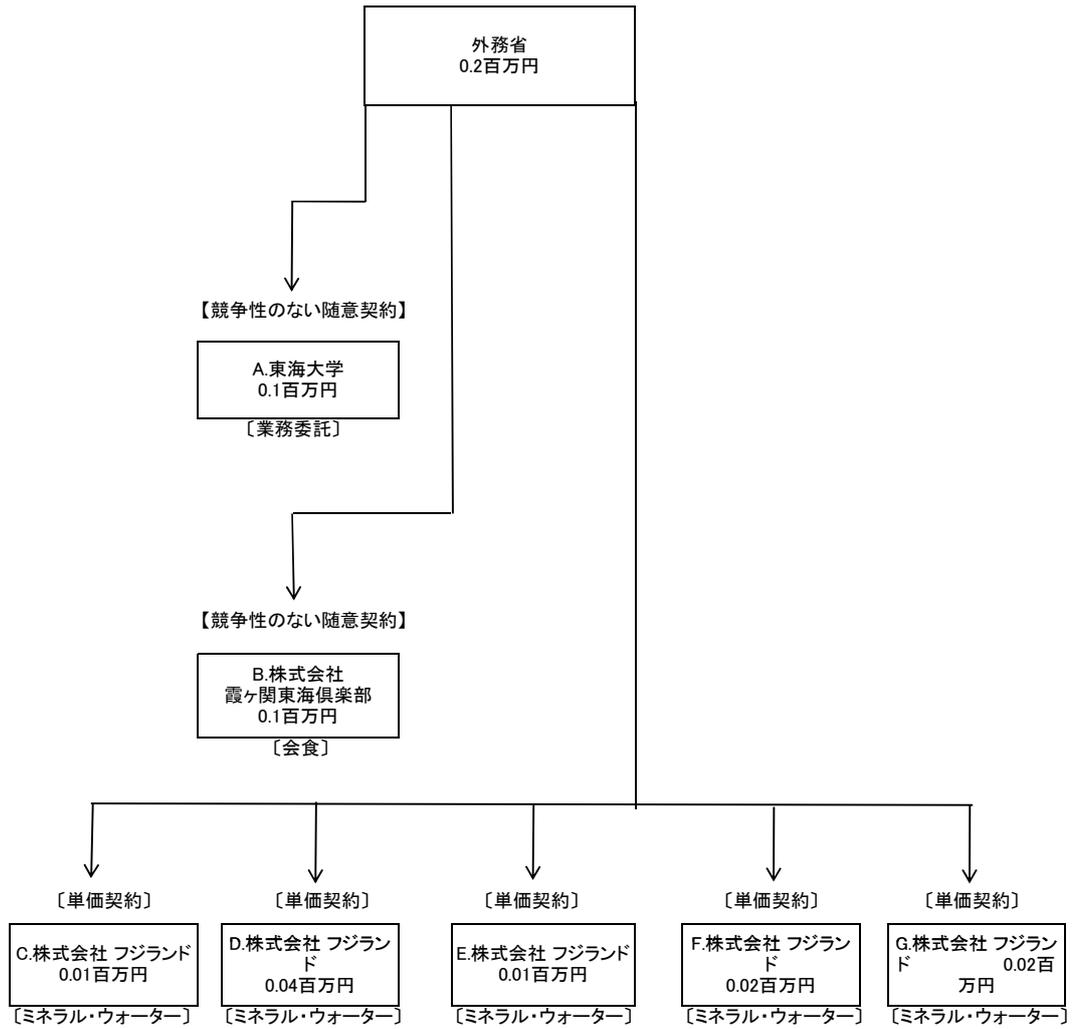


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	マレーシア日本国際工科大学関係経費	担当部局庁	南部アジア部	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度開始(マレーシア日本国際工科大学) ・平成30年度終了(予定)	担当課室	南東アジア第二課	課長 山本 敏生			
会計区分	一般会計	施策名	I-1 アジア大洋州地域外交				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条二、外務省組織令第44条	関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2001年にマハティール首相(当時)が小泉総理(当時)に対してマレーシアに日本型の工学系教育の大学設立を提案して以来、首脳会談も含め議論が重ねられてきた。2008年12月にマレーシア政府はマレーシア日本国際工科大学(MaJU)の設立を閣議決定するも、マレーシア政府側の事情により頓挫。その後、2009年10月及び2010年4月の首脳会談を経て、マレーシア工科大学(UTM)の下に独立性の高い大学院に重点を置いたインスティテュートとして、マレーシア日本国際工科大学(MJIIT)を設置することとなった。長期的にはASEANを含めた国際的な工学教育のハブ化、日・マレーシア産業界も関与する産官学民プロジェクトへの育成を視野に入れる。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	マレーシア工科大学クアラランブール国際キャンパスに大学院に重点を置いたインスティテュートを設立し、電子・コンピュータ工学科、機械精密工学科、環境・グリーン技術工学科、技術経営学科の4学科を開設。2011年9月の開校初年度は、学部150名及び大学院95名の合計245名の学生を募集し(開校7年後には学部・大学院あわせて約3,000名の学生規模を目指す)、日本側から日本人教員6名を派遣予定(最大時41名を派遣予定)。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	4	3	5	4	4
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	4	3	5	4	4
	執行額	3	0.9	0.2			
執行率(%)	65.4	26.5	5.2				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	(目標)MJIITへ派遣する日本人教員の選考準備を整え、MJIITのカリキュラム及びシラバス等を含む設立計画を検討する。 (評価)平成23年度に派遣される6名の日本人教員の選考作業は平成23年9月まで行われたが、同年5月に3名の候補、同年9月に同じく3名の候補が選出された。また、平成23年9月にMJIITが開校。平成22年度については、実績を定量的に示すことは困難だが、平成22年度に行われた活動が翌年の実質的な成果につながっている。 (成果実績)①協力大学数、②派遣教員数(人数x月数)。達成度は、準備進捗も含めて勘案		成果実績 ①校 ②人x月	①13校 ②3人x12月	①13校 ②3人x7月	①14校 ②0人	①23校 ②6人
			達成度	%	80%	40%	70%
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	日本人教員の選定に係る日本側関係者との会合、マレーシア側関係者との意見交換を実施。平成23年度に派遣される6名を選考する準備協議を行った。		活動実績 (当初見込み)	意見交換8回実施 -	会議1回実施 -	小委員会1回、 会議5回実施 (小委員会4回、 会議2回実施)	- (・各小委 ・日・マレーシア全 体会合)
単位当たりコスト	117,782(円/1回)			117,782円(業務委託)÷1回			
単位当たりコスト	21,466(円/1回)		算出根拠	128,800円(会議)÷6回			
平成23年度予算 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	外部委託	1,655	2,865				
	出張旅費	550	558				
	出張旅費	1,770	0				
	会議関係経費	100	196				
	計	4,075	3,619				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	MJITは平成23年9月に開校することとなり、大学を中心とする大学による本格的な検討は平成22年度第4半期頃から開始されたため、平成22年度予算は未使用分が発生する結果となった。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		事業の見直しによる減	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減(事業の見直しによる減)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)(単位:百万円)



支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東海大学	業務委託	0.1	—	—
2					

支出先上位10者リスト

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社霞ヶ関東海倶楽部	会食	0.1	—	—
2					

支出先上位10者リスト

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社 フジランド	ミネラル・ウォーター	0.01	—	—
2					

支出先上位10者リスト

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社 フジランド	ミネラル・ウォーター	0.04	—	—
2					

支出先上位10者リスト

E

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社 フジランド	ミネラル・ウォーター	0.01	—	—
2					

支出先上位10者リスト

F

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社 フジランド	ミネラル・ウォーター	0.02	—	—
2					

支出先上位10者リスト

G

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社 フジランド	ミネラル・ウォーター	0.02	—	—
2					